

返書 AI

操作マニュアル

2026/1/21

(株)オプテック 運用技術部

内容

1. 概要	1
2. 操作	1
2.1. カルテ	1

1. 概要

本ドキュメントでは、Opt.one3(3.2601バージョン以降)で使用可能な「返書AI」の操作について記載します(条件:ゴールドプラン以上ののみ)。

※ 返書AIの回答は必ずしも正しいとは限りません。返書AIはモデルの学習に患者の個人情報を使用しません。

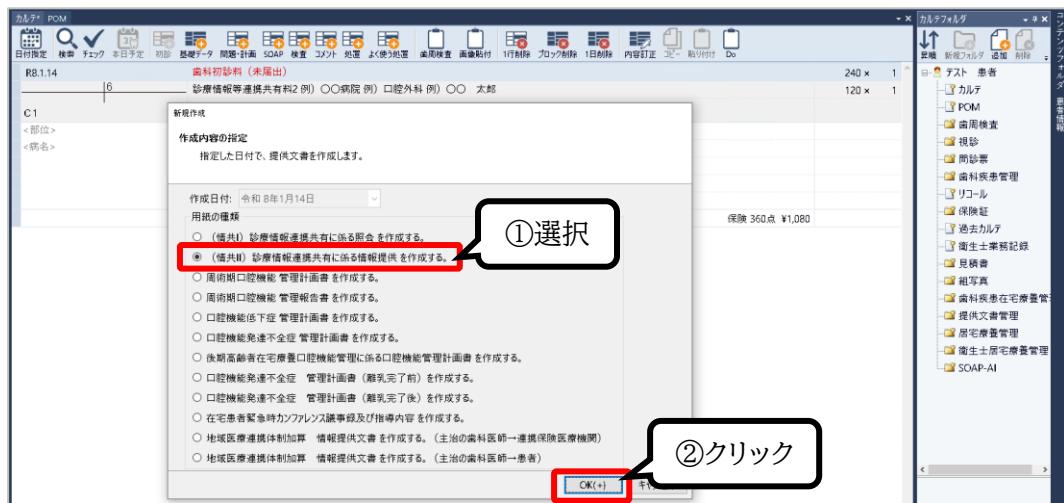
2. 操作

2.1. カルテ

(ア) 下記のどちらかを行います。

- カルテで 1305300「診療情報等連携共有料 2」120 点を算定し、カルテを保存する。
- 「カルテフォルダ TW> 提供文書管理> 新規登録」を選択する。

(イ) [新規作成]画面が開くので、[(情共 II) 診療情報連携共有に係る情報提供を作成する。]を選択して[OK]します。



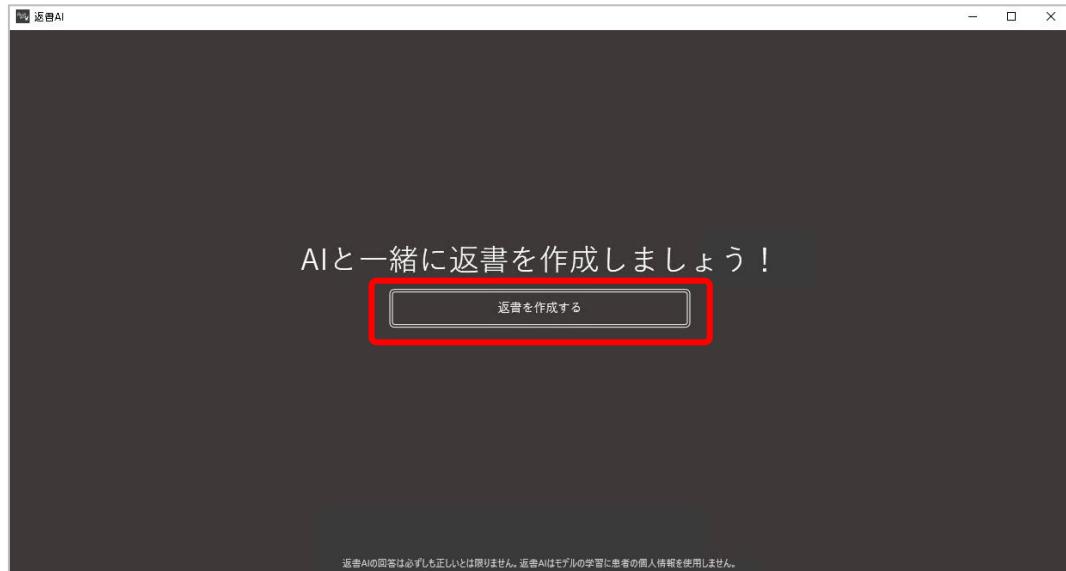
(ウ) 提供文書の作成画面が開くので、[返書AI]をクリックします。

※ カルテ入力がある項目は、転帰された状態で開きます。

※ 過去バージョンで作成した文書を開いた場合、[返書AI]ボタンは表示されません。



(エ) [返書 AI]画面が表示されるので、[返書を作成する]をクリックします。



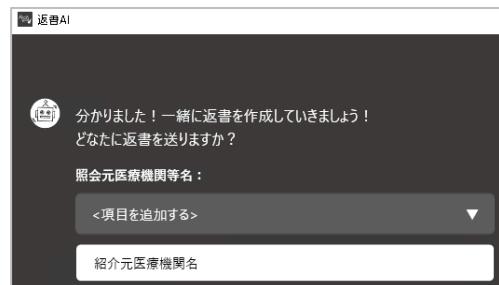
(オ) それぞれドロップダウンから照会元を選び、[次へ]をクリックします。

- ※ カルテで照会元が入力されている場合、選択した状態で開きます。
- ※ 照会元科では、歯科/口腔外科は選択できません。



- ※ 新しい照会元を追加する場合は[<項目を追加する>]を選択し、表示されたボックスに入力します。

追加した照会元は保存され、次回以降も Opt.one/返書 AI で選択できます。



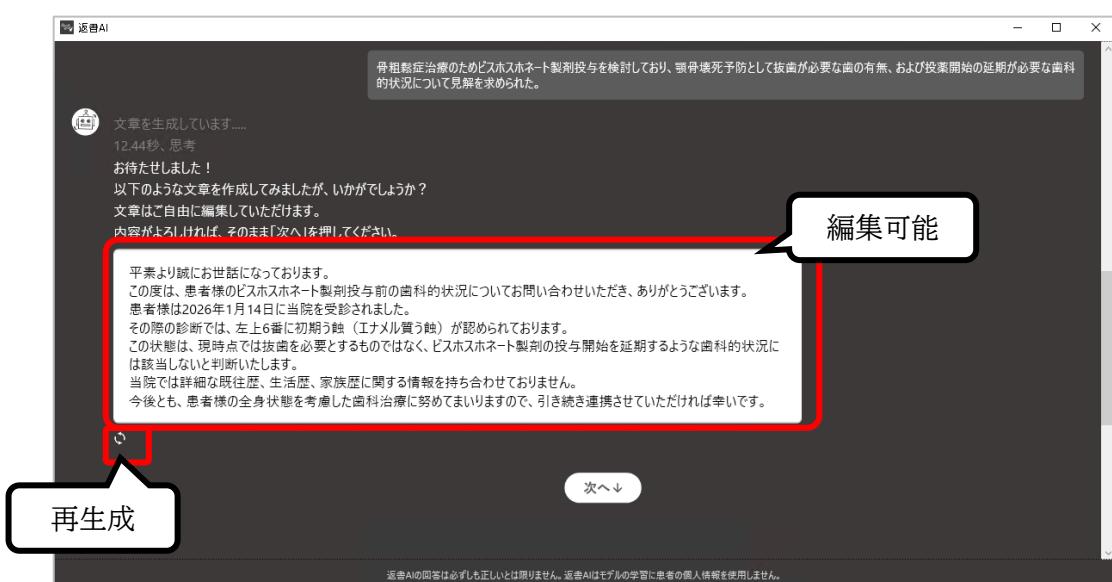
(力) 情報提供を求められた内容(必須)を入力ボックスに入力し、[次へ]をクリックします。



(キ) AI が生成した文章が表示されます。必要に応じて内容を編集し、[次へ]をクリックします。

枠内をダブルクリックすると編集可能状態になります。

※ 文章の再生成が可能です。再生成する場合、左下[リロードボタン]をクリックします。



(ク) 内容を確認し、[この内容で反映]をクリックします。

[返書 AI]画面が閉じ、[照会元医療機関への回答内容]に自動挿入されます。

返書AI

この内容でお願いします。

かしこりました。それでは、最後に今回作成する返書の内容を再度ご確認ください。
この内容でよろしければ「この内容で反映」を押してください。
変更したい箇所がある場合は、お手数ですが文書作成画面にて編集してください。

照会元医療機関名 例) ○○病院

照会元科 医科

照会元担当医 例) ○○ 太郎

回答内容

平素より大変お世話になっております。
この度は、ビスホスホネート製剤投与前の歯科的評価についてお問い合わせいただきありがとうございます。
1. 歯科的所見・リスク判定現在のカルテ情報からは、頸骨壊死リスクとなる感染源（抜歯が必要な歯や重度の歯周炎など）の有無を判断することができません。
安全な投薬開始のためには、詳細な口腔内診査とレントゲン検査が必須となります。
もしも、抜歯が必要な歯や重度の感染源が認められた場合は、投薬開始前にそれらの処置を完了させる必要があり、投薬開始時期の延期をご提案する可能性がございます。
2. 今後の管理方針つきましては、お手数ですが、患者様に一度当科を受診いただき、口腔内の詳細な診査を実施させていただければ存じます。
診査結果に基づき、必要な歯科処置の有無や投薬開始時期について、改めて書類と連携させていただきます。
3. 既往・特記事項現在のカルテ履歴には、歯科に関する特記すべき既往歴やアレルギー情報はございません。

この内容で反映 ↗

返書AIの回答は必ずしも正しいとは限りません。 AIはモデルの学習に患者の個人情報を使用しません。

カルテ POM (情共II) 診療情報連携共有に係る情報提...

印刷 部位入力 カルテから転記 反書AI

令和 8年1月14日

照会元医療機関名 例) ○○病院

科 医科

担当医 例) ○○ 太郎

当院 歯科医師 歯科医師 AAA

当院傷病名 う歯第1度 (C)

今後の治療予定

照会元医療機関への回答内容

その際の診断では、左上6番に初期う歯（エナメル質う歯）が認められております。
この状態は、現時点では抜歯を必要とするものではなく、ビスホスホネート製剤の投与開始を延期するような歯科的状況には該当しないと判断いたします。
当院では詳細な既往歴、生活歴、家族歴に関する情報を持ち合わせております。
今後とも、患者様の全身状態を考慮した歯科治療に努めてまいりますので、引き続き連携させていただければ幸いです。